

2024年1月14日

「来て、見なさい」

ヨハネによる福音書 1:43-51

竹島 敏牧師

イエスの弟子となったフィリポはナタナエルに出会いその喜びを伝えますが、ナタナエルは当時の常識に従い、イエスの出身地ナザレから、「良いものが出るだろうか」と率直に疑問を呈します。それに対し、「来て、見なさい」と自分の目で見て確かめてほしいとナタナエルをイエスに出会わせたことが記されています。1章では民衆や弟子たちは、洗礼者ヨハネが見たものを告げられ、またイエスが見ているものを何度も示されています。弟子たちはヨハネやイエスから示された事柄を見てはいましたがただ目撃したに過ぎず、イエスの復活後にはじめてその意味を理解するのです。また、20章24節以降にあるトマスと復活されたイエスとのやりとりでは、実際に見た者の語る言葉を信じるように、という求めがなされています。

主イエスのなさった事、言われたことを直接見聞きしてきた弟子たちの証言を聞くことで私たちは今、イエスを経験することができます。そしてサムエルが主の言葉に静かに耳を傾けたように、まずは自らを低くしてよく聞くことに専念する、それが、見た者から聞いたことを正しく的確な言葉で、私たちが語ることに繋がってゆきます。そのような信仰的な経験を数多く積み重ねていくことが大切で、そのようにして弟子たちがイエスの福音を伝える集団として成長していったように、この私たちもまた、聖霊によって豊かに用いられ、多くの人を力づけ動かすことにもなっていくのだと思います。「来て、見なさい」、そして「聞きなさい」、これが今朝の聖書の言葉が私たちに勧めていることであり、それがイエスを経験する者たちの交わりの場である教会が、聖霊のお導きによって豊かに用いられる秘訣なのです。